

小児科の医師をご紹介します

―受け入れ体制を強化いたしました―

10月より小児科の医師が増員となり、患者さんの受け入れ体制が整ってまいりました。入院や午後の緊急受診も可能な限り受け入れてまいりますので、ぜひご相談・ご紹介ください。

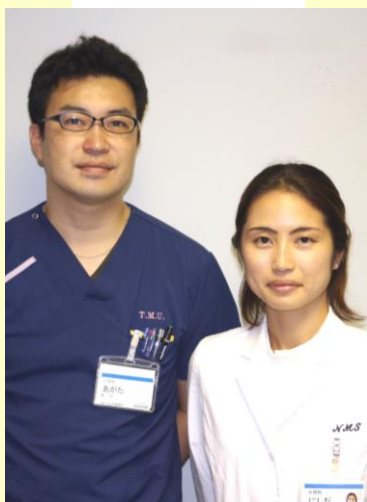
医長の西田の専門は小児呼吸器、10月入職の縣医師の専門は小児腎臓です。「肺炎や気管支喘息など呼吸器疾患のほかに、発熱や急性腹症などの通常の小児疾患を拝見します。2名体制ですので乳幼児の入院は難しいですが、小学生以上の肺炎や胃腸炎などの入院には対応していきますので、ご相談ください」と西田医

長。小児循環器と小児神経内科に関しては、第4金曜日に予約専門外来を



2008年日本医科大学 卒業
日本小児科学会小児科専門医
「長引く咳や反復性肺炎、気管支喘息などぜひご紹介ください」

小児科 医長
西田 理子 (にしだ さとこ)



小児科 医員
縣 一志 (あがた かずし)

設けています。また診察の上、川崎病など当院で対応できない疾患の場合は東京医科大学病院を始めとした大学病院・小児専門病院と連携をとってまいります。「8月よりRSウイルス感染症予防注射(パリビズマブ)を取り扱い、適応の院内出生児にはすでに始めています。ご希望の場合は、小児科外来までご予約のお電話をください。また来年1月より日帰り入院での食物負荷試験を、19年度には3泊4日程度の入院での成長ホルモン負荷試験を始める予定です」。共に開始可能となりましたら病院ホームページなどでお知らせしてまいります。小児科へのご依頼は、まずは地域連携室までお電話ください(今年度内の水曜日は非常勤医師対応となります)。



整形外科 膝関節軟骨損傷に対する「自家培養軟骨移植術」を開始いたします

外傷性軟骨欠損症・離断性骨軟骨炎に対する「自家培養軟骨移植術」を開始いたします。これは患者の軟骨の一部を取り出して増殖させ、患部に移植するもので、一度損傷すると自己修復できない軟骨の治療として期待されています(変形性膝関節症への保険適応はありません)。患者自身の細胞のため、拒絶反応も極めて少なく広範囲にわたっての治療が可能となります。膝関節センター長の森山医師までご紹介ください。

放射線科 宮林真未奈医師が第30回関東IVR研究会でポスター優秀賞を受賞

第30回関東IVR研究会にて宮林医師が「肝性脳症を伴う門脈大循環シャントに対しコイル/NBCA併用バルーン閉塞下逆行性静脈硬化療法を施行した1例」でポスター優秀賞を受賞しました。「今後も臨床科の先生方の診療の支えとなれるよう、より一層読影技術の向上に励んでまいります」(宮林医師)。

医療法人財団 荻窪病院 地域連携室
TEL 03-3399-0257 FAX 03-3399-0258

月～金 8:30～18:30 土 8:30～12:00

〒167-0035 杉並区今川3-1-24 <https://www.ogikubo-hospital.or.jp>